❻ 授業改善のための評価

指導と評価の一体化

個々の生徒の成長を促すだけでなく，評価は教師の授業力向上においても重要です。授業評価を積極的に行い，改善に努めましょう。

学習指導過程や指導方法に関する評価の観点としては，右のようなものが考えられます。校内研修などで観点をすり合わせておき，お互いに授業を見合って評価し合うことも有効です。授業後に生徒の『道徳ノート』チェックとあわせて振り返りを行い，少しずつでも日々の指導に生かしていきましょう。

また，道徳科の学習の中で，生徒が自分の意見を言いやすいようにしたり，お互いに友達の意見に傾聴する雰囲気をつくったりするには，日々の学級経営も大切です。生徒一人ひとりのよい点や成長の様子などを積極的に捉えて，日常の指導などにも生かしていきましょう。

最後に

令和元年，いよいよ中学校で「特別の教科　道徳」が始まりました。すでに学期ごとに評価を実施されている学校さん，年度末に一括して評価をするために準備をしている学校さんなど，いろいろあるかと思います。ぜひ，生徒一人ひとりのよさを伸ばし成長を促すための評価の充実が図られるよう頑張っていきましょう。

学習指導過程や指導方法に関する評価の観点例

●指導過程の計画は適切だったでしょうか。
　道徳的価値についての理解を基に自己を見つめ，人間としての生き方について考えを深められるような構成でしたか。

●発問，補助発問は有効だったでしょうか。
　生徒が物事を広い視野から多面的・多角的に考えることができる問いでしたか。
　道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いでしたか。

●ねらいに向かう発言の活かし方はどうだったでしょうか。
　生徒の発言を傾聴して受け止め，適切に活かしねらいに迫ることができましたか。

●教材教具の活用はどうでしたか。

●特別な配慮を要する生徒に適切に対応できましたか。

●評価のための資料の積み上げはできていましたか。
　ノートの活用や授業中の観察を充実させることができましたか。

（解説pp.117～118より要約，補足）

中学道徳 あすを生きる
『道徳ノート』を活用した評価実践例

日文　教授用資料
令和元年（2019年）12月20日発行

編集・発行人　佐々木秀樹

発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本資料は平成31年（2019年）度版中学校道徳科内容解説資料として扱われます。
本書の無断転載・複製を禁じます。

CD 33487

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

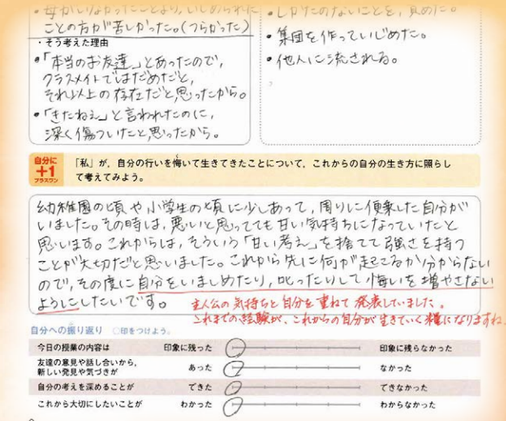
大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618
九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938
東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261
北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690

日文 教授用資料

保存版

中学道徳 あすを生きる

『道徳ノート』を活用した評価実践例



もくじ

❶ 道徳科の評価の根拠と基本的な考え方
❷ 道徳科の評価の留意点
❸ 具体的な評価文の書き方
❹ 評価のための資料の集め方と見取り方
❺ 評価の実践例
❻ 授業改善のための評価

高崎健康福祉大学特任教授　石川 勉　❶，❷，❸，❹，❻ 執筆
呉市立仁方中学校教諭　谷水 強　❺ 執筆

文中の「解説」は，『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編』を指します。

本資料は，一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り，配布を許可されているものです。

日文の教科書情報
詳しくはWebへ！　日文　検索

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

❶ 道徳科の評価の根拠と基本的な考え方

道徳科の評価をする前に

「道徳科の評価ってどうもよくわからない。」「各学期で計３回記入するけれど，成長の見取りってどうすればいいのだろう？」「評価に時間がかかる。」「他の先生との評価のばらつきが心配。」こんな声が聞かれる学校現場もあるのではないでしょうか。

実際に道徳科の評価に取り組む前に，まずはその根拠を「学習指導要領」で確認してみましょう。

道徳科の評価の視点

道徳科では，「道徳性を養う」という目標をもって指導するものの，道徳性は生徒一人ひとりの内面にある人格的特性なので，道徳性が養えたかどうかを評価することは困難です。そのため，評価では「道徳科の目標」に示された道徳性を養うための「学習活動」に着目します。特にどのような視点を重視するかは，「解説」に例示されています。

何を評価するのか

それでは，道徳科では何を評価するのでしょうか。これも「学習指導要領」に示されています。

生徒の　学習状況
　　道徳性に係る成長の様子

指導要録や通知表では，上記の学習活動に着目して，この２つについて記述するということなのです。

道徳教育の目標（第１章 第１の２の（２））

道徳教育は，教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，人間としての生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。　（解説p.153）

道徳科の目標（第３章 第１）

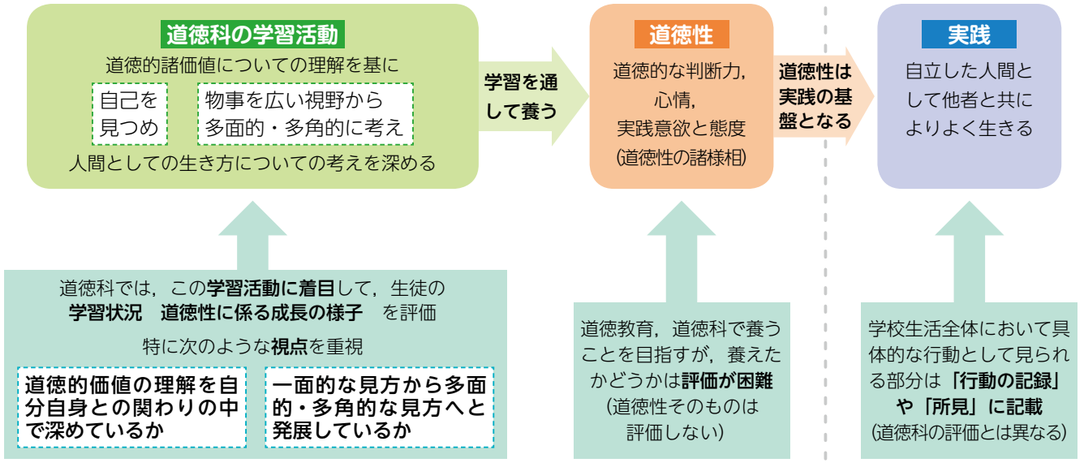
第１章総則の第１の２の(2)に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる。　（解説 p.13）

道徳科の評価の視点の例

評価に当たっては，特に，学習活動において生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ，自律的に思考する中で，一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが重要である。　（解説 p.112）

道徳科の評価（第３章 第３の４）

生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める必要がある。ただし，数値などによる評価は行わないものとする。　（解説 p.109）



❷ 道徳科の評価の留意点

道徳科の評価の方向性

右の内容が，文部科学省が示している評価の方向性です。では実際に評価をするとき，どんなところに留意すればよいのでしょうか。

留意点①　他教科の評価との違い

道徳科で生徒を評価するとき，他教科と違って「観点」とは言わず「視点」と言います。

これは，道徳性が生徒一人ひとりの内面にある人格的特性のため，「道徳的価値をどれだけ理解できたか」のように目標への達成度を測る評価や分析的な観点別評価がなじまないものだからです。

道徳科の目標の「道徳的諸価値についての理解を基に」が「理解し」ではないのも，他教科の知識理解とは異なり，道徳的諸価値は自分事として，自分なりの考え方として理解するものだからです。

なお，教師の授業改善のための評価では，他教科同様「観点」を使います（詳しくは本資料 p.8）。

留意点②　道徳科の評価の特質

道徳科では，生徒の道徳性そのものは評価しません。また，特別活動や学校生活などでの様子の記述でもありません。道徳科の学習内での，道徳性を養う学習活動に着目することを改めて確認しましょう。

一方で，単なる道徳科の学習の報告とならないように留意しましょう。学習活動から読み取れる生徒のよい点や成長の姿を記述することが，道徳科の評価です。生徒が，自分の考えや生き方について気づいたり深められたりしたことや，道徳科の学習で見られた姿勢や意欲を記述しましょう。

留意点③　困難のある生徒への配慮

評価の視点自体は，すべての生徒で共通しています。そのうえで，生徒個々人の困難さの状況を踏まえて，適切な配慮のある指導とセットで考えることが大切です。個人内評価であることのよさを生かして，生徒の成長を認め励ます評価を心がけましょう。

道徳科の評価の方向性

- 他の生徒との比較ではなく，生徒の成長を積極的に受け止めて認め，励ます個人内評価
- 生徒一人ひとりの学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取る
- 数値ではなく記述式で評価
- 道徳性の諸様相を分節し，学習状況を分析的に捉える観点別評価は妥当ではない（評価規準の設定なし）
- 個々の内容項目ごとではなく，大くくりなまとまりを踏まえた評価
- 年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で見取る
- 授業中の発言や姿，感想文，質問紙の記述や，それらを蓄積した記録物，プレゼンテーションなどの実演などを通して見取る
- 入学者選抜の合否判定に活用しない

（解説 pp.109 ～ 114 より要約，補足）

これはいけません！　注意したい評価

「○○さんは親切で心の優しい生徒です。」
「○○さんは最後まで頑張れる生徒です。」
×生徒の道徳性そのものは評価しません。

「先日の体育祭では，道徳の授業で学習した内容を生かし頑張りました。」
×道徳科外での行動や様子は，道徳科の評価には含めません。それらは各教科や活動の評価，「行動の記録」，「所見」に記載します。

「道徳科の授業では，よく手を上げていました。」
「思いやりの大切さについて書くことができました。」
×状況の把握として不十分な記述（他教科でも言えるような行動など）や，単に行動ができた・できなかったでの評価は避けましょう。

発言や記述の苦手な生徒や，発達障害等のある生徒への配慮の例

●発言や記述の苦手な生徒，日本語習得に困難のある生徒
　教師や他の生徒の発言に聞き入ったり，考えを深めようとしたりしている姿に着目する。

●コミュニケーションが苦手，心情理解などの難しい生徒
　役割演技，話し合いルールの明確化，ＩＣＴ機器の活用，興味を引くわかりやすい言葉での語りかけ，教員の立ち位置，理解のための補助など，学習指導過程で想定される指導上の工夫，配慮を見直す。

●海外から帰国した生徒や外国籍の生徒
　それぞれの文化や習慣など，生徒の置かれた状況を考え配慮する。

（解説 pp.113 ～ 116 より要約，補足）

❸ 具体的な評価文の書き方

評価文の構成例

評価の根拠や基本的な考え方，留意点をもとに，どのように評価を書けばいいのでしょうか。最近，多くの学校で例示されているのは，次のような構成の評価文です。

前半：大くくりのまとまり

道徳科でどのような学習状況や道徳性に係る成長の様子が見られたか，内容項目ごとではなく，また授業１時間ではなく学期や年間といった一定の時間的なまとまりの中で見取って記述する。

後半：具体例

前半の具体例（生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子が見られた顕著な例）として，どのような思いや考えをもてたのか，深められたのかを，生徒の発言・記述など観察可能なことをもとに記述する。

道徳科の評価文の構成例

自分の考えを素直に表現しながら，自分と違う考えも大切にしようとする姿が見られるようになりました。（48字）

特に「言葉の向こうに」（教材名）の学習では，「ネットでは相手の顔が見えないので，お互いに相手の考えや気持ちを想像して発言することが大切」（生徒の発言・記述などから引用）と書き，インターネット上での相互理解について考えを深めていました。（96字）

全体で100～150字程度

評価は生徒や保護者に届ける意識で

上記の構成で評価を書く場合，指導要録には前半のみを，通知表には前半＋後半を記述するとよいでしょう。これは，一つには指導要録と通知表の同一性を確保するためです。そして，道徳科の評価は生徒の成長の振り返りであり，道徳性を養う支援であるため，生徒や保護者に届ける通知表の記述にはより具体的で温かな触れ合いが大切だからです。そのため，難しい教育用語ではなく，伝わりやすい記述を工夫しましょう。また，個人面談や懇談で保護者と共有し，「先生はこんなところまで見てくれたんだ。」と感じてもらえるような記述にしましょう。

学期ごとに評価する場合は

地域や学校によっては，学期ごとに評価を書くところもあるでしょう。その場合は，１学期から３学期へ道徳科の学習を重ねる中で生徒が成長している様子が感じられるように書くと，さらによい評価になります。

評価には，日々のちょっとしたメモの積み重ねなど，評価のための資料を集める工夫が必要です。次ページでは，どのように評価のための資料を集めて蓄積し，見取っていけばよいかを見てみましょう。

学期ごとに評価する場合の記述例

●１学期

教材の登場人物の思いや考えをよく理解しようとする姿勢が見られました。中でも「○○」の学習では「●●」と発表し，素晴らしさを感じました。

●２学期

どの教材でも自分に置き換えて考え，友達のさまざまな意見にも耳を傾けていました。たとえば「△△」の学習では自分自身を振り返り，「▲▲」という記述が見られました。

●３学期

授業では意見を単に発表するだけではなく，新たに気づいたこと，友達との違いも発表し授業を活発にしてくれました。特に「□□」の学習では，「■■」と述べるなど，個性ある意見に感心しました。

❹ 評価のための資料の集め方と見取り方

『道徳ノート』を活用しよう

評価のための資料として，まずは『道徳ノート』が挙げられます。『道徳ノート』は，生徒自身の成長の記録であり，生徒の思考の流れや深まりが一つにまとまったものだからです。授業中の観察なども織り交ぜて評価の資料を蓄積していきましょう。

生徒の自己評価を大切に

生徒にとって納得感のある評価にするためにも，生徒の自己評価との関連を考えることが大切です。そのために，『道徳ノート』の各ページ下にある「自分への振り返り」（自己評価欄）を活用しましょう。毎時間の積み上げで，生徒自身にとってどの学習が印象深かったかなどの学習状況を見取ることができます。ただし，自己評価の内容を数値化するなどしてそのまま評価に反映しないようにしましょう。

また，『道徳ノート』の巻末にある学期末・年度末の振り返り欄を活用すると，その学期に生徒自身が感じている成長の様子を把握でき，評価の中に具体例を書くときに役立ちます。

どんな記述や発言などから見取ればよいか

『道徳ノート』の記述や授業中の発言，姿から見取る際は，評価の視点の例をもとに生徒自身が感じている成長の様子がわかるところに着目しましょう。

『道徳ノート』を活用した評価の流れ

授業中の観察
発言，表情，姿勢などから
「Aさんは友達の意見を真剣な顔でよく聞いているな。」

授業後のチェック
『道徳ノート』の記述や，書くのが苦手な生徒は個別の聞き取りなどから
「Bさんは，自分のこととして考えて記述しているな。」

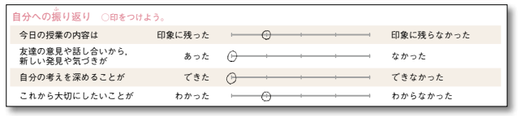
学期末，年度末のチェック
学期末の振り返り欄などから
「Cさん自身は，『○○の授業でよく考えた。』と書いているな。その授業のときの『道徳ノート』を確認してみよう。」

→ 指導要録 通知表

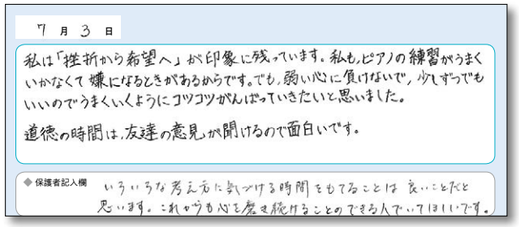
発言の少ない生徒や記述が苦手な生徒を中心に記録しておくと，あとで参考にしやすいです。TTの場合は授業者以外の先生にメモしてもらうとよいでしょう。

また，観察したよい点を生徒の『道徳ノート』に添え書きとして残しておくことも有効です。

『道徳ノート』の自己評価欄



『道徳ノート』の学期末・年度末の振り返り欄



●評価の視点の例（解説pp.112～114）
視点①一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
視点②道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
※これらの視点はあくまでも例示で，他の視点も考えられます。

生徒の記述や発言，姿など	見取り方の例
Aさんの意見はすごいと思った。やっぱりAさんにはかなわないなあ。	→視点①に関わって，自分と違う立場や感じ方，考え方などを理解しようとしている。
思いやりは，ただ相手を大切にするだけじゃなくて，さりげなくすることも大事なんだと思った。	→視点①に関わって，道徳的価値についてさまざまな視点から捉えて考えようとしている。
自分はせまい考え方だったなあ，と感じました。	→視点①，②に関わって，他の考え方に触れることで，自己を見つめ現在の自分を振り返り，自らの考えを見直している。
これからは，もっと大きな考えをもっていこうと思いました。	→人間としての生き方についての考えを深め，これからの自分の生き方に生かそうとしている。
自分にも主人公と似たことがあったけど，主人公と同じようにはできなかった。	→視点②に関わって，登場人物を自分に置き換え，自分のこれまでの体験から感じたことを重ねて考えている。
（姿）積極的な発言はなかったが，友達の意見を真剣に聞き，「難しいな」とつぶやき考え込む様子が見られた。	→視点②に関わって，道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え，考えようとしている。

❺ 評価の実践例

生徒Ａさん（1年生）

Ａさんは，どの教科でも先生の話をうなずきながら聞いている生徒です。

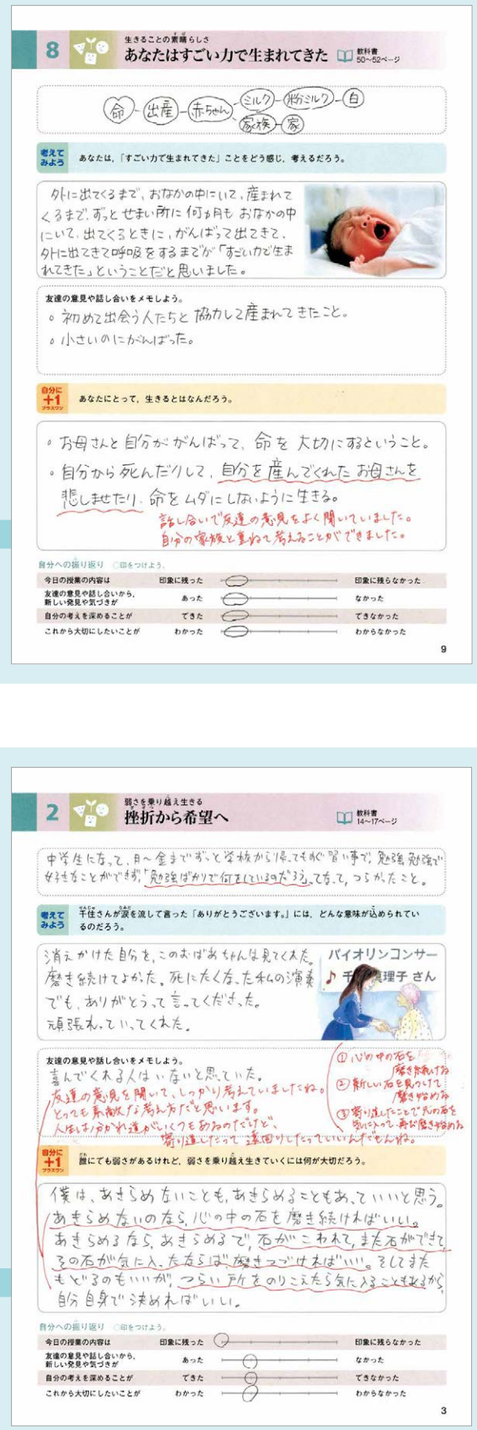
道徳科の授業中に観察した様子

発問について，自分の中でよく考えている姿が見られました。しかし，自分の考えが書けなかったり，書いていてもクラス全体に発表することはなかったりと，消極的な様子が見られました。グループの活動では，多くはありませんが，自分の考えを発表したり，友達の発言に質問したりする姿が見られました。

Ａさんへの評価文

道徳の授業をとおして，自分のことと重ね合わせて考えていました。

「あなたはすごい力で生まれてきた」では，話し合いで「人は一人で産まれてきたのではない」ことに気づき，道徳ノートに「自分を産んでくれたお母さんを悲しませないように」「命をムダにしないように」と書いて，自分や自分の家族と重ねて考えていました。　(150字)



生徒Ｂさん（1年生）

Ｂさんは，クラスのリーダー的な存在で，勉強，部活動どちらも頑張り，何事にも積極的に取り組む生徒です。

道徳科の授業中に観察した様子

授業に積極的で，自分の考えをしっかりと発表していました。また，グループの活動では，自分の意見を発表するだけでなく，司会として友達の意見をよく聞き，それらをまとめてグループの意見として発表している姿が見られました。

Ｂさんへの評価文

道徳の時間をとおして，友達の考えをよく聞いて受け入れながら，自分の考えを広げていました。

「挫折から希望へ」では，話し合いで自分とは違う考えに触れ，道徳ノートには「あきらめないこともあきらめることもあっていい」「自分自身で決めればいい」という記述があり，異なるどちらの考えも理解しようとしていました。　(149字)

生徒Ｃさん（2年生）

Ｃさんは，とてもおとなしい生徒です。部活動でこつこつ努力し，だんだんと成果が上がっていても，自分に自信がもてず物事に消極的な様子が見られます。

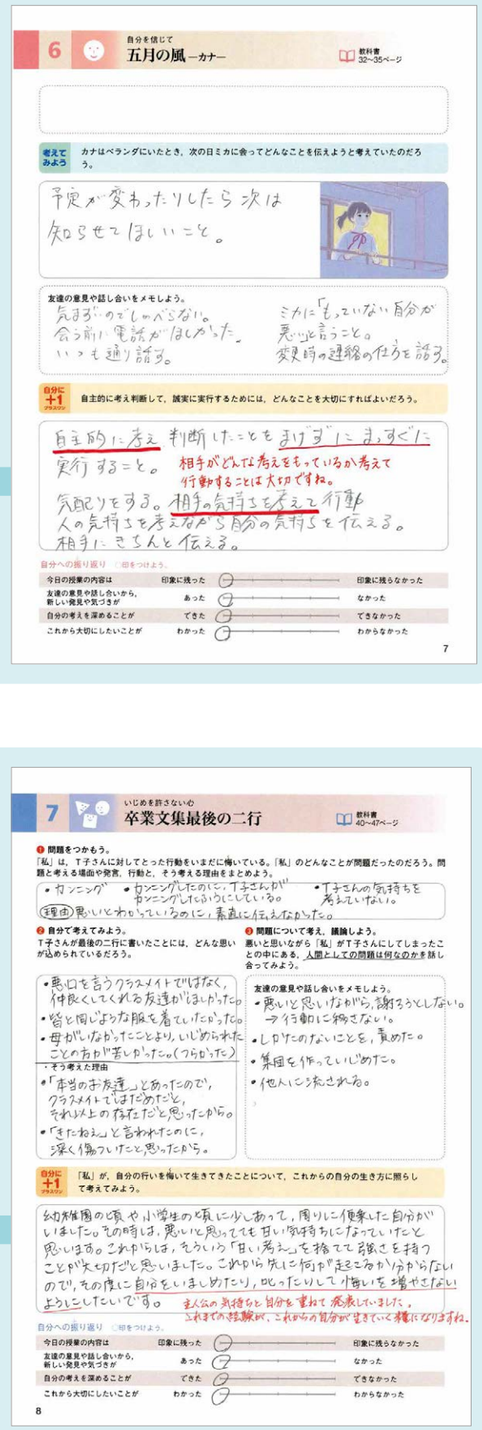
道徳科の授業中に観察した様子

授業では自分から発表することはなく，先生に指名されてもなかなかうまく答えられません。また，グループの活動で友達の意見は聞いても自分からの発言はほとんどありませんでしたが，道徳ノートに友達の意見を丁寧にメモする様子が見られました。

Ｃさんへの評価文

道徳の授業をとおして，さまざまな考えがあることを理解し，相手の立場で考えていました。

「五月の風ーカナー」では，自分とは違う多様な意見を聞き，道徳ノートからは，自分で考え判断したことを曲げずにやりとおそうとする思いや，相手の気持ちを考えて行動することの大切さについて，よく考えていることがわかりました。　(150字)



生徒Ｄさん（3年生）

Ｄさんは，とても活発な生徒で部活動ではキャプテンを務めています。クラスでもリーダー的な存在で，周りに流されることなく自分の判断で行動しています。

道徳科の授業中に観察した様子

授業では積極的に発表し，一生懸命に頑張ろうとするあまり，自分の考えを最後まで通そうとする場面がときどき見られます。自分の意見をきちんと主張できるというよい面も見られました。

Ｄさんへの評価文

道徳の授業をとおして，自分を振り返り，将来の生き方について考えを深めていました。

「卒業文集最後の二行」では，「いじめを許さない心」について主人公の思いと自分の思いを重ねながら考え，今までの自分の経験も振り返りながら，甘い考えを捨てる強さをもち「悔いを増やさないようにしたい」と書いていました。　(146字)

※生徒の記述や姿，評価文などについては，個人が特定できないように一部再構成しています。